

とな 上 等 イ 写 方 判 の だ。 リ ア 働 し 活 動 北 京 ク を だ は 。 道 術 に る 。 し た は 人 1 タ 真 の う 20 概 念 の 1 シ は 器 器 ス ラ につ と じ つ た

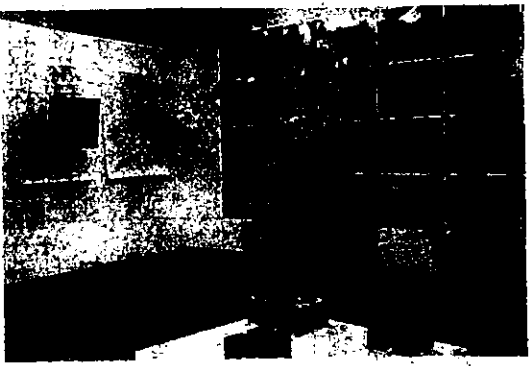


言十...
ムツとした表情で柔道男は振り返った。「だが、まだ曲があったところがある」「曲がってないません。」「(二)数日のあの子を見たでしよう?」。柔道男が目を剥いて言い返した。「勝手なもんやのう」。口を出すなという口ぶりだ。僕の奥で何かが作動した。
(くろなき・りゅうじゅん) 僧侶、作家)

禅の語録散策④ 独坐大雄家
げた清水公照長老の言葉に、「自由って? 歩いてみなはれ」なあんでもないことによ、気がついたら、しめたもんや」といつのがある。私は(二)数年の間にたぐさんの大病をし、歩行器の助けを借りて歩いている。しみじみと普通に歩き、走り、立ち座りができる、つまりあたりまえのすばらしさに気づくことができ、病気を雨無と拝んでいる。(愛知専門尼僧堂長)

機械の視点から人間中心を問う

つているのは都市風景である。コラーージュには新聞・雑誌から切り抜かれた膨大な情報断片化され、再構築されている。ドローイングは円や曲線が繰り返される。共通するのは過剰な情報を束ねていることだ。
私たちを取り囲む新聞や雑誌の写真、タイポグラフィ(文章を読みやすく見せる技術)、色使いはすべてデザイン教育の蓄積の賜であり、ドローイングに使われている雲形定規も既存の美学に沿うものだ。カメラという機械もまた西洋文明の美学に準じてきた。金村はそれらを使い、その内部に入り込むことで、この世界が是としてきた美学と、それを育ててきた教育シ



展示風景 | 筆者撮影

*東京都新宿区矢来町114 高橋ビル地下2階、CAVE-AYUMI GALLERYで、10月13日まで。水・木曜休廊。詳細はホームページで。

展覧会
★谷原菜摘子展「私たちの人生」 渋谷区恵比寿1の18の4 NADiff A/P/A/R/T3階、MEM (29日まで、24日休廊)
★牧ゆかり展「Strange Reality」 中央区銀座4の4の13 琉映ビル4階、ギャラリー-58 (23日~28日)
牧ゆかり「願いごと」



システムを内部から破碎しようとする。過剰に情報を束ね、反復することにより裂け目を見だし、一点集中突破する方法で。
ori.studioは金村作品への応答として、1648ページの「作品集」をつくり、オンラインとして展示している。それも金村作品を印刷し、機械的に裁断し再構築するといったものだ。両者に共通するのは、機械の視点を得ることで、人間中心のシステムに疑問を投げかけることだ。その問いこそが、美術における機械の最も重要な存在価値なのである。(タカサワケンシ) 写真評論家)

短 信

◆くだけけ会・秋の3回講座 逆転の教育 28日(土)とことん人生科、10月19日(土)「意味」のつまっている教育、11月30日(土)教師道、親道のポイント。いずれも10~12時。神奈川県小田原市栄町1の1の27、小田原UMECO会議室7。講師：和田重良・同会代表。参加費各回千円。定員36

人(申し込み順)。◎申し込み同会石塚さん◎0465・74・4770、メール(kudakake@dance.ocn.ne.jp)
◆第3回全国赤水ウオーク! 東京大会2024 10月5日(土)10時半~(受け付け9時半~10時)、東京都千代田区日比谷公園1、日比谷公園内「かもめの広場」集合。水戸徳川家6代藩主の侍講を務めた長久保赤水ゆかりの地を巡る。約6km、約3時間。内閣官房

「領土・主権展示館」で竹島も記載した赤水図などを見学後、皇居東御苑内休憩所と大芝生で昼食(弁当・シートは各自持参)、旧水戸藩上屋敷の小石川後楽園に入園後解散。長久保赤水顕彰会ホームページ(<http://nagakuBOSEKISUI.org/>)のお問い合わせフォームから事前申し込み。定員120人、参加費300円、締め切り27日。◎同会三浦事務局長◎080・3421・0196

2024.9.22 東京新聞有楽園版